

タイトル	エンゼルメイク手順書の作成、エンゼルケアの見直しと改善
------	-----------------------------

事業所	特別養護老人ホーム 吉祥寺ナーシングホーム		
発表者：船田花奈（ふなだかな）	アドバイザー：		
共同研究者：櫻井敦郎（さくらいあつろう）			

電話	0422-20-0869	E-mail	
FAX	0422-20-0806	URL	

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人至誠学舎東京を母体とし、平成6年12月より事業を開始しています。吉祥寺ナーシングホームは入所50名、短期入所3名の特別養護老人ホームです。他部署にはデイサービス、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所が併設されています。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

吉祥寺ナーシングホームでは、入居者が施設で亡くなった際、介護職員がエンゼルケアを行っている。最近行った際、エンゼルメイクの道具が十分でないことに気が付いた。メイクに用いる化粧道具は本人のものや家族が準備したものを使うことが多く、施設共用品の化粧道具の管理が不十分であった。人生の最期をより良く迎えて頂くために、ふさわしい道具を整え、メイク技法を見直すと同時に、エンゼルケア全体の改善と見直しが必要であると考えた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

本研究を始めるにあたり、3つの目標を掲げた。

- ① ご利用者がその人らしく、美しい最期を迎えられるためのケアを充実させる。
- ② ご家族の想いを尊重し、悔いのないお見送りができるようなケアを行う。
- ③ 職員のエンゼルケアの技術の向上と、ケアを行うことでの精神面での不安の軽減を図る。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 正職員を対象に、エンゼルケアに対する不安点や改善すべき点を聞き、意見をまとめる。
- ② ①をもとにエンゼルケアの既存手順書の確認と改善を行う。
- ③ 職員の意見と参考文献をもとに、エンゼルメイクのみを記載した手順書を作成する。
- ④ ②③の手順書を実際に活かす。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ・エンゼルメイクに用いる化粧品を新たに整え、足りないものは購入した。
- ・普段聞くことが少ない職員同士のエンゼルケアに対する意見を交換し合い、不安点や反省点などの気持ちの共有をすることができた。
- ・現在エンゼルメイクは主に女性職員が担当しているが、これまでナーシングホームに無かったエンゼルメイクのみの手順書を制作したことで、男性職員から「安心感がある」との意見を得ることができた。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、職員に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《参考文献》

- ・小林光恵/著(2012年)
『もっと知りたいエンゼルケアQ&A』
『説明できるエンゼルケア』医学書院
- ・小林照子/著(2013年)
『死に逝くひとへの化粧』太郎次郎社エディタス

【メモ欄】